

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	スーパー（店 長）	来客数の動き	・来客数が回復傾向にある。ただし、衣料品を中心とする季節商材は、異常な残暑の影響があり、売上では前年割れとなっている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・6月から宿泊稼働率が順調で前年比111%の伸びとなっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・9月の東京便は中型機投入により供給増となり、販売量もある程度伸びてきている。10月以降は供給が前年並みになるが、下期の立ち上がりは修学旅行需要、団体需要が好調で前年を上回ると予想している。
		タクシー運転手	販売量の動き	・今月は暑い日が続く、タクシーの利用も増えた。観光客の入込も衰えなかった。3か月前の売上より約10%伸びている。また、前年実績からみても、約6%の伸びであることからやや良くなっている。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・必要と思われるものには支出を惜しまない言動がみられる。全員とまでは言わないが、そのような客が増えてきている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・3か月前の6月の利用客数は、東日本大震災前の2010年と比較して98.2%であった。一方、9月の利用客数は、25日現在で、同じく2010年と比較して101.4%となっている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・北海道の場合、例年この時期は冬前の駆け込み需要がみられるが、今年は前年の東日本大震災の影響からの反動増と消費税増税前の駆け込み需要がすでに始まっている様子であるため、例年より引き合いが多い。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・現在、弊社では分譲マンションの在庫がほとんどない状況であり、「早く次の物件を発売しないのか」といった客からの問い合わせが多い。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年になく暑い日が続いたため、来客数が減っている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・9月に入っても暑い日が続く、秋物にはなかなか手は出せないという声が非常に多くなっている。その上、観光客が尖閣問題の影響で急に冷え込んでおり、街を歩く姿が急になくなった。ますます消費マインドが下がってきているのが現状である。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・気温の高い日が続いており、秋物の動きがかなり遅くなってしまって、客の購買欲がみられない。秋物の立ち上がりの商品について数字的なものは見えてきているが、全体的には、客の買いがかなり遅くなってしまっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の動向をみると、様子見という認識が全体的に感じられる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・8月に比べて来客数が大幅に減少している。前年比でも10%程度悪くなっている。8月が前年比で10%程度良かったため、9月に期待していたが、結局のところ前年と比べて10%程度減少している。尖閣問題による中国人の減少等の影響があるとみられる。
	百貨店（役員）	お客様の様子	・9月の観測史上最高気温を中旬に記録するなど、考えられない猛暑で秋物は全滅、ストーブも前年比3割の状況となっている。しかしながら、店外催事などの企画については順調である。客の消費意欲は落ちていないとみられる。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品は良いが、衣料品や生活関連の伸びがあまり良くない。残暑もあり、気温が不安定な状況にあることが影響している。	
	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・夏の暑さがお盆を過ぎてから9月25日まで続くなど、例年では考えられない暑さが続いたため、衣料品の購買意欲が減少している。	
	家電量販店（店員）	それ以外	・9月の残暑の影響で暖房機のスタートが2週間ほど遅れているが、まだ本格的な遅れではない。	
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・エコカー補助金終了間際から来客数が激減している。販売台数、登録台数も前年割れで非常に厳しい。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数が減少しており、ハイブリット車志向の客がほとんどとなっている。	

	乗用車販売店 (従業員)	競争相手の様子	・他店との競合や競争に関しては、他も苦しみながら対応している。当業界ではエコカー補助金が終わったことで、上向きにはなっておらず、変わらずそのままの状況にある。
	自動車備品販売店 (店長)	競争相手の様子	・夏並みの気温が続いている現状において、秋物商品の動きが1か月ずれているように感じる。自動車用品業界全体でも前年を下回る予測となっている。
	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・来客数が目立って伸びてきている様子はない。
	高級レストラン (スタッフ)	単価の動き	・週末はフリー客、平日は豪華客船の団体客と入込が良く、前年比では5%増となっている。年配客が多く、旅行を楽しんでいることがよく分かる。
	タクシー運転手	来客数の動き	・注文数が概ね前年並みで推移している。観光客が減り、法人関係からの注文が増えている。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・季節や天候に左右されることなく、一定の消費生活を送る傾向が出ており、そのため、客の来店周期も固定化されてきている。
	美容室(経営者)	販売量の動き	・今月の売上は、前年同月及び前月よりも伸びているが、一時的なものなのか、景気が上向きなのかは判断しきれない。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・残暑も終わりを迎えて、本来の気候に戻りはしたが、ここ数年は季節による変化はあまり感じられないため、大きな変化はみられない。
	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・客の様子をみると、地価公示の下落、また株式市場の不調により、盛り上がりには欠けている。
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・変化はみられない。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・残暑から急激な気温低下により地元客が出控えていることに加えて、全国規模及び全道規模の大きな大会もほぼ終了していることから、来街者が減少している。また、中心部のホテル関係者の話によると、アジアからの観光客も前年より減少している。
	一般小売店[土産](経営者)	販売量の動き	・中国人観光客が減少したことで、街全体のにぎわいが減っている。また、道内でも真夏日が続いたことで道外客が減っており、これらの要因が重なって販売量が確実に落ちている。
	一般小売店[酒](経営者)	販売量の動き	・今月は飲食店への来店が非常に良くない月であった。例年7～9月の来店動機となる宴会等が非常に少なかったことに加えて、全体的な不安要素も大きく、なかなか飲食に消費が回らない状況にある。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・9月は残暑が残り、30度近い気温の日が9月下旬まで続いたため、秋物の動きが非常に厳しかった。ジャケットで前年の7割、コートも前年の5割となっており、秋物の動きが完全に止まってしまった。
	百貨店(売場主任)	単価の動き	・先月は買上客数が前年割れとなるも、客単価がアップした。しかしながら、今月は買上客数、客単価とも前年割れと苦戦している。
	百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・尖閣諸島や竹島問題などで、中国や台湾、韓国からの来道者数が激減しており、来客数にも影響が出てきている。特に、高額品を購入する高所得層の中国人観光客が来店しておらず、今後しばらくの間、苦戦が予想される。
	百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・街なかでの行政イベントが開催されたにもかかわらず、来客数は前年実績を維持できなかった。異常気象に起因する購買意欲の停滞といった影響もあるものの、仕掛けた企画に対する顧客の反応が鈍い。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・当月の販売量は前年比97%、前々年比87%となっている。
	スーパー(役員)	来客数の動き	・気温が高い関係で、生鮮食料品の相場や生産、漁獲量すべてに影響が出ている。また、9月は消費者の食生活が夏型に近く、全体的にバランスが崩れている状況で推移したことが要因で、客単価の低下、来客数の減少が大きく、前年の売上から数字を落としている。
	スーパー(役員)	お客様の様子	・記録的な残暑により秋物商材が全く売れなかった。夏物商材も売ったが、客は必要な分しか買わないため、前年並みの売上は取れなかった。
	コンビニ(エリア担当)	お客様の様子	・今月は記録的な残暑の影響で客に動きがみられた。飲料水やアイスクリームがけん引したこともあり、利益も前年を上回っている。

		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・例年売れるはずの催事商品が売れなかった。特に生活必需品ではない商品が売れなかったため、客の財布のひもが固いと感じている。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客が買物をしなくなっている。やや悪くなっているところではない状況であり、小売店としては状況が悪くなっている。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・例年にない残暑の影響で、例年はお盆後から需要が生じる大型暖房機が今年はほとんど売れなかった。逆に、エアコンや扇風機等の夏物家電は若干需要が伸びたが、大型暖房機の需要減を取り戻すまでには至らなかった。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金の終了により、景気がやや悪くなっている。
		高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・下旬までの気温が高く推移したことから、前年並みとなった。もう少し伸びがみられることを期待したが、中旬に市街地で食べ物の催事が始まってからは、週末の予約がふるわなかった。食のイベントは楽しい反面、レストランにとっては足が遠のくようだ。
		観光型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・オフシーズンへの移行期であり、稼働率、客単価ともに低調に推移した。また、中国本土からの観光客の20%前後がキャンセルとなった。
		タクシー運転手	販売量の動き	・前月、前々月と比較しても、今月も変わらず、景気状況の好転がみられるような兆候が出ていない。受注状況を見ると、前月を下回るような動きにもなっている。地域経済においても同様の動きが推測される状況となっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・ツアー客が大幅に減少しており、旅客、車両ともに輸送量が前年を下回っている。
	悪くなっている	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・月を追うごとに新車の受注量の減少傾向が目立つようになっている。それにともない、受注残も減少しており、売上の低下にも影響が出ている。エコカー補助金の効果も後半は販売に寄与しなかった。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊単価は上昇傾向にあるが、本州方面からの団体客が道南方面に集中していることや、貸切バスの安全規制強化により廃業するバス会社が多数出ていること、バスの減車が進んでいることなどから、団体客の需要に対応できず、販売機会を失っている。さらに、道内在住の個人客の動きも鈍い。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・9月の取扱額は、国内旅行が前年比84.7%、海外旅行が前年比80.0%となっている。国内旅行、海外旅行とも前年割れしており、状況は悪くなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・9月の当地のタクシーの売上は前年を大きく下回った。8月までは前年比で若干のプラスだったが、9月は大きくマイナスとなっており、利用客も減っている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・あまりにも不景気で意見も何も無い。どうか貧富の差をなくして、政治経済が安定するようにして頂きたい。
企業動向関連 (北海道)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	建設業（従業員）	取引先の様子	・建築鉄骨加工業界は大型建築工事が数件発注されており、大手工場は年内一杯フル稼働の見込みとなっている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して受注量の伸びがみられる。
		コピーサービス業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・受注額の大きい案件が継続的に受注できている。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	競争相手の様子	・農業関連で各社の動きが活発になっている。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・客先の仕事量が増加傾向にあり、ベース商品の販売量がやや好調に推移した。
	変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して、ほぼ変わらない状況にある。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・請負物件に停滞感がある。百貨店や住宅関連はまずまずの状況である。	

	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・飲料品、医薬品、飼料製品、紙製品の輸送取扱に大きな変化がみられない。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・今月も荷動きは順調に推移している。前年と比較しても着実に取扱量が伸びているが、前月との比較では横ばいである。鋼材、輸出入のコンテナ貨物は安定している。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・観光客はほぼ東日本大震災前の水準に戻ったが、尖閣諸島問題から中国人客のキャンセルが相次いでいる。設備投資は医療福祉施設やメガソーラーの建設で底堅い。建設は震災復興工事による技能工不足で、工期の遅れや人件費増から収益悪化の企業もみられる。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引については若干の上昇傾向がみられるが、建物建築等についてはやや不透明な面がみられる。	
	司法書士	取引先の様子	・土地取引、建物新築とも下降気味である。政局ばかりで景気回復の兆しがみられない。	
	やや悪くなっている	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・尖閣諸島の国有化問題による経済への影響と東南アジア観光客等の減少がみられるなか、地域では食に関する大型イベントの開催で予想を超える来場者があり、多少の地域活性化がみられた。一方、長引く残暑の影響で農産物の育成や海水温の上昇により、水産物の漁獲量等に変化がみられたことで、加工原材料の調達と価格面での対応に苦慮している。
	悪くなっている	-	-	
雇用関連	良くなっている	-	-	
(北海道)	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・8月に複数の業種で求人件数が前年並み又は前年割れの傾向がみられたが、9月に入って、それらの業種が再び求人件数を伸ばし始めた。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年比114%と求人数がやや下がった8月と比べて再び持ち直した。スーパー等の小売業や飲食業、理美容及びエステ等の生活関連サービス業、娯楽業等、個人消費関連業種での求人の増加が目につく。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・周辺企業から景気が良くなっているような話は聞かないが、求人数は着実に増えている。特に9月に関しては、米国の大手金融機関の破たん前の水準に近いレベルまで回復している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は7.3%増加し、31か月連続で前年を上回った。また、月間有効求人数も11.5%増加し、同じく31か月連続で前年を上回った。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	それ以外	・企業の求人意欲は上向きになってきている。一方、求職者の数も増加しており、これにより完全失業率も有効求人倍率も回復しているように見えるが、実際には企業が求めるスキルは以前より高いスキルを望んでおり、求職者、特に若年の求職者は働く意欲が低く、なかなか就職が決まらないミスマッチが持続している。企業は人の採用が遅れ、事業運営がスムーズにいかず、業績が思いのほか上がっていない。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・賃金が変わらない。どちらかと言えば低下傾向にある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・季節による期間作業員や2次加工要員の不足から、派遣を含むパート及びアルバイトの求人が全体の8割以上となっている。正規雇用の求人は総体として微減傾向となっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・件数の増加だけでなく、広告のサイズも大きくなるなど、募集広告の売上は前年比で124%と今月も大きく伸長した。最大の売上を占める派遣業が約5割の増加となったほか、製造卸も6割強増えた。基幹産業である農業の収穫期を迎えて、農作業、農産物加工の求人が特に増える時期ではあるが、道外のメーカー下請からの出稿もあり、全体を底上げした。
		職業安定所（職員）	それ以外	・8月の管内の有効求人倍率は0.55倍と前年を0.10ポイント上回り、平成19年9月以来の水準となった。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・有効求人倍率は0.64倍と平成12年以来の0.6倍台まで上昇したところではあるが、景気が良くなり、求人数が伸びたということではなく、求職者が大きく減少したことによるものであった。転職希望の在職者も現状の景気動向の様子見をしているものとみられる。

	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・ 8月の新規求人数は前年比で3.8%の増加となった。新規求職者数は前年比で9.0%の減少となった。月間有効求人倍率は0.68倍となり、前年の0.55倍を0.13ポイント上回った。一方、新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は46.5%となっており、求職者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-